

心理的安全性に満ちた、さわやかで気持ちのいい学校を目指して
【調布市立 A 中学校】

不登校生徒の状況

本校は、特別支援教室拠点校として市内に巡回指導の教員を派遣し、成果をあげている。そのためか、様々な課題克服のために、本校を希望し通学している生徒が全校生徒の40%にもものぼる。

具体的な取組

特別支援部会

週1回特別支援部会を行い不登校生徒の状況や関係諸機関との連携・具体的な支援方法について話し合いの場をもっている。

(組織は、管理職・不登校対応加配教員・特別支援教育コーディネーター・生活指導主任・学年主任・スクールカウンセラー)

魅力ある学校づくり

・土曜学習部を設置

学習支援としては、校外からボランティアを募集し、年間20回の活動を行っている。現在全校で35名の生徒が部員登録し、学生・社会人を含め、54名のボランティアが登録している。

特別支援教室での指導 (少人数)

- ・コミュニケーションが取りにくい。
- ・集団での行動が苦手である。
- ・学習障害がある。
- ・場面や状況に応じた行動が難しい。
- ・作業に時間がかかる。

などの課題をもっている生徒が情緒の安定を図り、より良い人間関係を築く力を育む指導を行っている。



教員校内研修会

今年度のテーマは「心理的安全性を確保したインクルーシブ教育の推進」とした。

・東京学芸大学教職大学院准教授増田謙太郎先生を講師として2回の研究授業参観と講演を実施した。(QUテストを使った学級づくり)

・年6回の相互授業参観を実施。



成果

今年度7月にとった生徒・保護者の学校評価によると、生徒では、「安全で安心な学校だと思う」が90%、「毎日学校へ行くのが楽しい」が85%、「本校の生徒で良かった」が93%であり、保護者も同程度である。「心理的安全性に満ちた学校」として成果をあげている。

課題

不登校生徒の対応には、現在不登校対応加配教員がいるが、居場所づくりを推し進めるためには、外部の関係諸機関や人材が不可欠である。また、居場所そのものを新たにつくる必要もある。